

承認されて決議されました。

- ・報告事項；2024 年度事業報告（会長及び専務理事の職務執行状況の報告）
- ・第 1 号議案：2024 年度貸借対照表・損益計算書（正味財産増減計算書）・財産目録
・貸借対照表及び損益計算書の注記と監査報告
- ・第 2 号議案：2025 年度事業計画書と収支予算書
- ・第 3 号議案：定款第 4 条第 2 項の変更

続いて同会場で 2024 年度 ONSA 賞授賞式が行われ、水田会長から 3 名の受賞者に賞状と賞金が贈呈されました。それぞれの受賞者の挨拶の後、記念撮影が行われました。業績の概要はこのニュースで紹介します。

以上で 2025 年度定時会員総会が閉会しました。この後会場では引き続き、参加会員、ONSA 賞受賞者、関係者で昨年度に続いて交流会が行われ、なごやかな時間を過ごしました。

2025 年度の ONSA の事業のご紹介

事業計画は概ね従来からのものを基本として継続すると共に、より魅力あるものにするために随時実施の方法を検討します。

1. 放射線に関する知識普及と会員への情報提供

継続して「みんなのくらしと放射線知識普及実行委員会」に参加し、学生や一般市民などへの放射線の知識普及活動を行います。ONSA はこの活動を行うための重要な役割を担います。

放射線科学研究会（年 3 回、第 1 回は本ニュースに案内掲載）、第 34 回放射線利用総合シンポジウム（2026 年 1 月 26 日（月）に開催予定）や施設見学会を開催します。また ONSA ホームページ、ONSA ニュースと電子版を活用して、情報を提供します。

〔ONSA 会議室の活用〕 会員の企画によるミニ研究会（出席者 10 人前後、Online 開催も可能）やミーティングをサポートします。ご希望があればご相談ください。

2. 委託業務、調査・研究などの受け入れ

行政機関、公設研究機関、民間などから調査や研究などを受託します。また ONSA では、外部からの依頼によるガンマ線の吸収測定等の実績があります。是非ご相談ください。

3. 放射線関係団体、行政との連携活動

全国の団体との連携、実行委員としての活動を行います。

4. 放射線利用に関する優れた研究・活動の顕彰と支援

放射線や放射性同位元素等に関わる優れた研究・活動の奨励のために ONSA 賞を贈ります。広く企業、学校、研究機関などにおいて、関係する研究、産業における利用の促進や普及、または人材育成での優れた業績を対象としています。

5. 技術相談

放射線利用機関の紹介や、放射線被ばくなどの技術相談を受けています。

6. 専門部会の設置と活動

既に設置されている2つの専門部会による活動と新たな設置、会員増によるこれらの活性化を図ります。

7. その他の活動

一例として、大阪府立大学の先生が開発された便利で高性能なペルチェ冷却型霧箱を受託販売しています。

大阪ニュークリアサイエンス協会賞受賞者のことば

国立大学法人 京都大学 大学院医学研究科 脳病態生理学講座（精神医学）

講師 久保田 学

受賞課題：国内開発リガンドと陽電子放出断層撮影法（PET）を用いたタウイメージングによる精神神経疾患の病態解明と新規治療戦略

★ 受賞の挨拶

この度は、栄誉ある大阪ニュークリアサイエンス協会賞（ONSA 賞）を賜り、誠にありがとうございます。本賞を選考いただきました先生方をはじめ、日頃より研究推進にご支援いただきました多くの方々に、心より感謝申し上げます。

私は長年にわたり、陽電子放出断層撮影法（PET）や核磁気共鳴画像法（MRI）を用いた精神疾患の病態研究に取り組んでまいりました。特に PET は、 ^{18}F や ^{11}C などの陽電子放出核種で化合物を放射能標識したリガンドを体内に投与し、その体内動態から目的とする物質を可視化・定量測定する技術で、脳神経領域において、患者さんの脳内で起こる分子レベルの変化を捉えることのできる貴重な手法です。

一方、中高年期から老年期にかけては、うつ病や認知症などの精神神経疾患の罹患リスクが高まります。これらの疾患が患者さんや社会全体に与える影響は大きく、適切な診断と対策が喫緊の課題となっています。これまで、これらの疾患の一部には脳内のタウやアミロイドといった異常蛋白の蓄積が関与していることが、疫学研究や死後脳研究から示唆されていましたが、患者さんの脳内でその変化を捉え、診断や治療に直接結びつけることは困難でした。

私は、前勤務先である量子科学技術研究開発機構（QST）において、樋口真人先生（現 QST 脳機能イメージング研究センター センター長 兼 大阪公立大学教授）らのご指導のもと、QST で独自開発された、多様なタウ病変を可視化できる PET リガンド ^{18}F -florzolotau を用いた生体脳内のタウ蓄積の評価法・定量法の確立、そして臨床研究への応用に取り組んでまいりました。アルツハイマー型認知症に加えて、前頭側頭型認知症をはじめとする他のタイプの認知症、さらには老年期の気分症（うつ病、双極症）や精神症などの患者さんに ^{18}F -florzolotau PET 撮像を受けていただき、脳内のタウ蓄積パターンに基づいた病態の層別化に尽力してまいりました。また、関西圏での ^{18}F -

